

提言第13号 胃瘻造設・カテーテル交換に係る死亡事例の分析

事例10

< 事例概要 >

（胃瘻カテーテル交換）

- ・ 80 歳代、誤嚥性肺炎がある介護施設入所中の患者。意思疎通困難。BMI 18.9 kg/m²。
- ・ 6 か月前、当該医療機関で胃瘻造設。初回カテーテル交換のため同医療機関外来を受診（交換前の胃瘻カテーテルはバンパー型）。
- ・ 外来診察室で、シースを使用しカテーテル抜去後、バルーン型カテーテルを挿入。単純X線検査でカテーテル先端が胃内に留置していることを確認。
- ・ 介護施設に戻り、初回の栄養剤注入後に吐血あり、当該医療機関と異なる医療機関に救急搬送。内視鏡で胃瘻カテーテル先端が胃内にないことを確認。栄養剤の注入の情報が不明なまま、翌日に当該医療機関を受診予定とした。介護施設に戻った後心肺停止し、交換翌日に死亡。
- ・ 死因は、汎発性腹膜炎。死亡時画像診断（Ai）無、解剖有。